

編集：山田浩司 & 美澄

Address: 2208 North Quantico Street, Arlington, VA, 22205, USA

Phone: 1-703-241-0621 E-Mail: mickeyy@pc4.so-net.ne.jp

## 三鷹のお婆ちゃん、ワシントン訪問



5月中旬に初めての業務出張で日本に帰ったのを良い機会に、私の帰りのフライトに合わせ、三鷹のお母さんがワシントンを訪問された。

到着初日の午後から樹生の幼稚園での奮闘振りを見学したりして大忙しだったお母さんは、9日間の滞在中、リーズバークやタイソズコーナーでショッピングをしたり、子供達にとっても昨秋以来となる列車小旅行を、メリーランド州の南ウオーカーズビル鉄道で楽しんだり、ホワイต์ハウスやワシントン記念塔、スミソニアン博物館の観光等をして、5月31日、無事に帰国の途についた。

お婆ちゃんの来訪は、子供達にとっても待ちに待ったもので、丁度千智の3歳の誕生日が5月20日にあり、樹生も間もなく5歳の誕生日を迎えることもあって、2人は最初からお婆ちゃんとパパ

が誕生プレゼント&おみやげ満載で日本からやって来ることを相当に期待していた。スーツケースのパッキング等をやっている間に最もかさ張ったのは子供のオモチャだ。特に樹生の「ウルトラマン・コスモス」「仮面ライダー龍騎」といったキャラクター系グッズが大きかった。当然のことだが、子供達は大満足で、ベッドで眠る時も枕もとに何かしらオモチャを置いて寝る。少しずつ小出しにしていこうという親の魂胆も足元を見られ、毎日のように、樹生は「ねえ、〇〇出してよ。」としつこく聞いてくる。

ダレス空港での見送りは、金曜日にもかかわらず家族全員で出かけた。お婆ちゃんがセキュリティチェックの向こうに姿を消すと、樹生は、「お婆ちゃんが間違った方向に歩いて行っちゃった」と本当に心配して泣き始めた。お婆ちゃんが大好きな樹生君、お婆ちゃんが無事に飛行機に乗れるか本気で心配していた。

### テック・スピナーを抱いて眠れ！

みきお君、お婆ちゃんのお土産の「ウルトラマンコスモス・テックサンダーセット」を片手に今夜もおやすみ！



美澄の授業も、私の仕事も通常と変わらず通学通勤をしていた中で、少なくとも美澄が授業を終えて帰宅してからでないと観光にも出かけられないという点ではハンデが大きい滞在だったと思う。私に至っては、ここ2ヶ月の異常な勤務振りを象徴するが如く、朝7時に家を出て、帰りが10時を回ることもあった。ただ単に子供達の面倒を見ていたもろただけに終始してしまった感じで、今回は非常に心苦しかった。できることなら、私達の残りの滞米生活の間に、もう一度、今度はお父さんと一緒にお引きしたいものだと思っている。子供達も既にその日を心待ちにしている。

## 定期協議の交通渋滞

## 復活・私の仕事シリーズ(その2)

4月初旬にJICAと世銀の定期協議が行なわれたことは、これまで度々「サンチャイ通信」にて紹介してきた。世銀が他の援助機関との間で政策調整や事業への共同出資等を話し合う「定期協議」の受入準備は、私が所属するユニットの仕事である。世銀は7月から新会計年度に入るため、翌年度の世銀の事業計画に自分達の意向を反映させることを目的として、4月から6月までの間に定期協議ミッションを送り込んで来る先進国援助機関は元々多い。例年4月初旬でないともミッションが出せないJICAや、世銀の各国担当のエコノミストとの意見交換会を年2回行なっているJCIF（国際金融情報センター）といった日本の機関がこの時期に来るのに加え、今年は外務省経済協力局の審議官が4月下旬に来たのを「定期協議」と称して世銀の各部局との面談をセットしたし、私の同僚の工藤職員は、5月第3週にJBIC（国際協力銀行）、第4週にECFA（海外コンサルティング企業協会）との協議をセットした。

日本関係の機関だけでもこれだけ来訪者が多かったこの時期、去年と比べても格段に忙しくて、早朝出勤と残業を繰り返した。この2ヶ月を振り返っただけで、JICA、デンマーク外務省、日本外務省、JCIF、デンマーク・コンサルタント信託基金レビューミッション、スウェーデン海外援助庁の協議ミッションの受け入れをさばいた。単に面談セットするだけではない。協議の前にはうちの上司に向けて事前ブリーフィングの資料を作り、協議の各セッションにはなるべく出席してメモを取り、ラップアップの前までにもう一度上司に向けて簡単な議事録メモを作り、協議終了後は世銀のウェブサイトに掲載のちゃんとした議事録をまとめ、各セッションで世銀側出席者が約束した事項を彼らがちゃんとやってくれているかフォローする、そこまでのことが含まれる（JCIFだけは例外で、単に個別面談をアレンジするだけ）。

時には、逆に世銀側の高官が先進加盟国を訪れたりもする。その際のブリーフィング資料作りも私達の仕事だ。5月中旬には、うちのイアン課長が1日だけ東京滞在する機会があった。私自身もこれに合わせて東京に出張したのだが、自分自身あまり知識のなかった日本の民間助成財団をいくつか訪問するというので、自分自身の出張の準備より、課長のブリーフィング資料を作る方が大変だった。また、パリに駐在している欧州担当の世銀副総裁がデンマークを訪問するというので、ブリーフィング資料作りにも協力を求められるケースがあった。

東京出張からこちらに戻った翌日から、デンマーク・コンサルタント信託基金レビューミッションを受け入れた。と言ってもデンマーク側からの概要連絡が遅く、殆どのアポ取りは私の出張中にうちのユニットのアミラ女史がやってくれたので、私は出席するだけで良かった。ただ、当初コンサルタント2人だけが来ると聞いていたのが直前になってデンマーク外務省の参事官が加わることが決まり、事前に概要のブリーフィングが殆どできていなかった信託基金担当副総裁がいくつかのセッションに突然呼ばれるという不手際があった。それが済むと、連休を挟んだ翌週早々から3日間スウェーデン海外援助庁との定期協議だ。しかも、この3日間は、ECFAとオランダも協議ミッションを送ってきており、我が方も日程調整が大変だった。

嵐のような2ヶ月が終わり、6月になって少しは楽になるのかと期待していた。確かに楽にはなった気がするが、ここでイアン課長から、「専務理事に協議結果を報告するため、これまでの定期協議の議事録を至急まとめろ」との指示が飛んだ。まあ、ある程度はまとめてあったのでこれは大した作業じゃないなと思っていたところ、今度は私の「天敵」、チームリーダーのC女史が、突如としていろいろ仕

事を振って来るようになり、さらに「今週は、来たらすぐに答えなければいけない作業指示が飛んで来るから覚悟しといて！」という、何だかどこかの省庁がどこかの援助機関に待機命令をかけるのとそっくりな指示を出してきた。その割にはC女史、しっかりと夕方6時30分には帰ってしまうし、金曜日はきちんとAWSを取ってんだよなあ。

## 祝ワールドカップ開幕！ 明日の栄光は君たちの手に



アメリカの女子スポーツで最も盛んなのは何かご存知だろうか。バスケット、ソフトボール、ラクロス…男女平等のアメリカ社会で数多ある女子スポーツの中で、最も商業的に成功しているプロリーグを持ち、なおかつ分厚いプレーヤー人口を擁するのは、実はサッカーなのだ。週末、アメリカのファミリーレストランに入ると、いかにも練習か試合帰りという風情のジャージ姿の女の子グループを見かけることがよくある。彼女達は、平日の放課後にコーチの下で練習し、週末の試合に備えるのだ。

いつ頃から彼女達はサッカーを始めるのかなと思っていたら、樹生が通っている託児センターの午後のプログラムで、週1回サッカー教室というのが4月から始まった。5歳になる前からボールに馴染ませているのだ。勿論、この教室はオプションで、樹生のクラスの児童全員が参加しているわけではない。親からすれば、週1回の計8回コースを受講させるのに、ボールとすね当てを準備しなければいけないのだからそれなりの投資だ。ましてや我が家では裏庭にゴールを作っている。有り余るエネルギーを消耗させるためにも、樹生にはサッカーをやらせた方がよいということで、参加即決した。

たまたま私が三鷹のお婆ちゃんと一緒にDCに戻った5月23日に最終回のクラスがあるということで、2人で樹生の応援に出かけた。6人ずつのチームに分かれ、しっかり同じ色のゼッケンを付けて、試合をやっていた。勿論、ピッチを区切るラインは意識せず、ゴールにとにかくけり込めばよく、キーパー無用で子供達はボールに密集する。あまりボールが遠くに行くと、コーチが「New Ball!!」と行って新しいボールをフィールドにけり込む。45分の練習が終わると、最後は卒業セレモニーだ。最後まで練習に参加した子供達には、コーチからメダルが授与される。

こうしてサッカーにいそしむ子供達に、男女の区別は全くない。いずれは男子だけ、女子だけのチームに分かれていくのだろうが、今は男女混成チームでボールを追いかける。こうして幼児の頃からサッカーを覚える子供達が明日のアメリカ・サッカーチームを支えるのだ。既に女子サッカーは世界のトップクラスにいるアメリカだが、いずれ男子のサッカーも、ワールドカップ上位に名を連ねる強豪チームへと成長してゆくことだろう。(…などと書いているうち、6月5日にアメリカチームが優勝候補のポルトガルを撃破したため、アメリカ国内でのサッカー報道は、突如として過熱し始めた。)

さて、サッカー教室が終わった後の樹生の進路だが、既にフェアファックスのサッカー・アカデミーからしっかりダイレクトメールが届いており、やらせるかどうか思案に暮れているところだ。続けるならばまた続報をお届けしたい。

## マリナーズとドジャースのボルチモア遠征



アメリカ有数の美しいボールパーク「カムデン・ヤード」見にくいけれど、マウンドにはドジャース先発の石井一久投手が登板中。

功させた。彼の打撃や走塁は本当に隙がない。走らないと思ったボールカウントで走ってくる。今回はイチローに近いライト側外野席で観戦したので、そもそもイチロー目当てのファンが多かったのは間違いはないが、「イチロー！」と声援を送っているアメリカ人のファンは去年よりも確実に増えた気がする。試合の方はマリナーズ1点リードで8回裏に長谷川が二番手で登板してきっちり三者凡退で9回裏の佐々木に繋いだ。

佐々木は開幕2ヶ月で自責点が未だないので、当然抑えられるのかと思っていたら、先頭打者がヒットで出た後の送りバントの処理を自分で誤り、敬遠も含めて一挙にノーアウト満塁の大ピンチ（もとい、オリオールズファンの私にとっては大チャンス！）。これで得意のフォークボールは投げれんだろうなと思っていたら、案の定今年売出し中のギボンスに一塁線を破られてあっけなく逆転サヨナラ負けを喫した。中日ファンの私としては、横浜時代の佐々木に散々カモにされてきただけに、この逆転サヨナラ負けは一矢報いた気分だ。近くの観客席にかなり強烈な応援をやっていたマリナーズファンのグループがただけに、地元チームの応援をしていた山田ファミリーは大いに盛り上がった。カムデン・ヤードに来るのはこれで4度目だが、初めてオリオールズの選手がホームランを打つのを見たし、そもそもオリオールズの勝ち試合を見るのも初めてだった。ナイトゲームで帰宅は夜11時を過ぎてしまったけれども、最後まで観る価値十分の好ゲームだったと思う。

その翌週は、野茂と石井がいるロサンゼルス・ドジャースがボルチモアにやって来た。ドジャースはオリオールズと所属リーグが違うので、年2~3回の「インター・リーグ」と呼ばれるアメリカン・リ

5月末から6月中旬にかけて、ボルチモアにマリナーズとドジャースが遠征して来た。樹生をオリオールズの「ダッグアウト・クラブ（子供ファン向けプログラム）」に入れたお陰で手に入ったパドレスとの試合のタダ券も含め、この間にオリオールズの試合を3つ観戦した。この2ヶ月仕事が忙しかったのと、日本人選手がいるチームとの対戦がなかったことがあって、オリオールズ観戦は開幕から2ヶ月も経った5月末になってしまった。オリオールズはここまでほぼ勝率五割前後を維持しており、去年と比べたら大健闘だ。

最初に見たのはイチローがいるシアトル・マリナーズ（6月1日）。イチローは4打数2安打と活躍。しかも5打席中エラーと敬遠を含めて4回出塁し、3回二盗を試みて2回成



ーグとナショナル・リーグの交流戦で、数年に1回当たるかどうかの珍しい対戦カードだ。野茂も石井も先発ローテーションに入っているのに、三連戦のどこで先発してくるか2ヶ月以上前にはわからない状態だったのに、なんと私は開幕前に第2戦（6月8日）のチケットを押さえてしまった。1週間前から新聞とにらめっこして、当日の先発が誰になるかを予想していた。そして、運が良いことに、第2戦の先発が石井になることがわかった。オリオールズの方がローテーションの谷間だったので、どのみちドジャースが勝つだろうと思っていたから、この日は地元チームを応援しつつも、石井の投球を冷静に見た。佐々木の場合と違って、石井には中日が苛められたという苦い記憶もないし…

石井は初回到3点本塁打をいきなり打たれたが、その後6回まではまったく完璧な投球内容だった。93マイルの速球の後に69マイルのカーブを投げられては、オリオールズ打線は全く手が出ない。結局、一度はリードしたもののオリオールズは先発投手が持たずにすぐに逆転されてしまった。元々石井が目的だったので、6回裏を石井が投げきったところで球場を後にした。石井は早くもこれで10勝目だ。

アメリカでは、球場のことを「ボール・パーク」という。その名の通り、何でもありの「公園」みたいな場所で、試合中もいろいろな形で楽しんで下さいという趣旨の催しが多い。それでも子供達にとっては3時間の試合というのは集中力が続かない。「ダッグアウト・クラブ」に樹生を入れて良かったのは、毎試合キッズ・コーナーで選手のカードとかお絵描き用の紙とクレヨンを配布してくれるというサービスである。スタンドで観戦中も、子供達はお絵描きで時間をつぶすことができる。もっとも、うちの子供達は、地元チームの応援の時には、他の観衆と一緒に「チャージ！」と叫ぶし、ドジャースの試合を見に行っているのに、「イチローは出てないの？」と聞いてくる。巷の同世代の子供達に比べて、マインドコントロールは進んでいる。それでも、スポーツは何が好きかと聞かれて、「サッカー」と答える樹生には複雑な思いである。

## 今ももう少し言わせて！

- **買う前から開けて喰うな！**：スーパーマーケットとかで買い物をしていて、どうしても違和感を感じる事が1つある。特にスナック菓子やペットボトル入り炭酸飲料を買う客によく見られるのだが、お金を払う前から平気で袋を開けて中味をポリポリ食べ始めたり、結構カロリー高そうなあま〜い飲み物をグビグビ飲んだりしている。いかにも食欲旺盛という感じの太ったお兄さんお姉さんがそれをやるならともかく、スリムでいかにもスポーツマン然としたアメリカ人がやっているのを見る事が意外と多い。これは1985年に私がアメリカ留学していた頃にもあった。これがカフェテリアみたいところで、自分が食べたいものをピックアップしてお盆に乗せ、「さあお金払ったらすぐに食べますよ」という状況であれば、サンドイッチとかに添えられているチップスやフレンチフライを一切れ二切れつまんで口に運ぶのにはさほど違和感はない。私のアメリカ留学時代は、そういう光景をよく目にした。でも、まさかスーパーマーケットで、車に戻ったらすぐに食べますという状況でもあるまいし、なぜショッピングの真っ最中に平然と開封して中味を食べ始めるかね？少しぐらい待てないのだろうか。さすがに、殆ど中味が空になってしまったポテトチップスの袋を持って、レジで会計してもらっている客の姿を見た時には目を疑った。レジの店員はなんて思うんだろうか。こればかりは、アメリカ人の常識を疑う。
- **アメリカで見るワールドカップ**：アメリカには、MLS(メジャーリーグ・サッカー)というプロサッカーリーグがあるが、現在開催中のサッカー・ワールドカップの反響はイマイチである。この時期、アメリカのスポーツといったら、NBA(バスケットボール)のプレーオフであり、NHL(アイスホッケー)のスタンレーカップ優勝決定戦である。ワシントンの場合は、プロゴルフのケンパー・オープンが新聞紙上を賑わせ、さらに競馬のベルモント・ステークスで33年振りの三冠馬が出るかどうか話題になり、さらにボクシングではマイク・タイソン対レノックス・ルイスが開催された。時差の関係で、ワールドカップの殆どの試合が夜中の2時過ぎから放送開

始である。スポーツ専用ケーブル局の ESPN は深夜の時間帯のソフト充実でラッキーだったかもしれないが、フツウのアメリカ人だったら絶対見ない。但し、アメリカチームが優勝候補のポルトガルに快勝した頃から、少しずつ雰囲気が変わってきたかもしれない。一方で、アメリカにありながら世界中の熱狂を一箇所に凝縮しているのが実は世界銀行である。世銀にはワールドカップ参加国出身の職員が多いので、試合結果で気が気でないのである。連日開催されている予選のうち、日本で夜 8 時 30 分に開始される試合は、こちらでは朝 7 時 30 分から見ることができる。熱狂的サッカーファンは、世銀本館地下 1 階のカフェテリアが開く 7 時 30 分には大型テレビの前に陣取り、ご鼻屑チームを応援する。アメリカーポルトガル戦、イングランドーアルゼンチン戦、フランスーウルグアイ戦等は、さすがに世銀の大出資国だけあって応援する同国籍の職員の多さを実感できた。勿論、韓国ーポーランド戦を観戦していた韓国人職員の数もなかなかのものだった。こうして早朝から観戦した後、9 時半頃にはオフィスに戻るわけだが、なぜか午後には ESPN が配信している再放送の際も、かなりの職員が集まっているのには驚かされる。ワールドカップは、自国のチームが参加していない途上国の人たちにとってもただごとではない。純粋にサッカーファンもいるが、賭けの対象にもなっていることも大きい。仕事に身が入らず、政府も企業も全く機能が停止してしまう国も多らしい。そうした意味では、世銀は、サッカーに冷めたアメリカの中では異常な場所と言えるかもしれない。それにしても私のオフィスの周辺では機能低下した感じがしないなあ。定期協議ラッシュは過ぎたとはいえ、6 月も引き続き忙しい。

## 編集後記

- 東京出張中にどうしてもやっておきたかったことの 1 つに、ホームページを作成するためのハウツー本の購入があります。「どうせなら過去に編集したサンチャイ通信をさかのぼって見れるようにして欲しい。」とのリクエストにお応えしようと考え、チャンスを狙っておりました。DC に戻った後、デンマーク、スウェーデンとの定期協議の合間を縫って、極めてプリミティブな形ではありますが、まかりなりにもホームページ「サンチャイ・ドット・ネット」を立ち上げました。ご関心ある方は是非そちらにも訪問してみてください。URL は <http://www.sanchai.net/> です。いずれ、ネパール在勤時代のオリジナル「サンチャイ通信」もアップロードさせたいと考えています。(浩司)